

## 黙って涙を流す神と、正しさや秩序を要求する神—— あなたはどちらを選ぶ？

Greatchain

October 28, 2024

これは前稿で、母親の2つのタイプを喩えとして論じたことと繋がっている。どちらが本当のあるべき母親か？ どちらが正しいということはできない。しかし、学校の成績も悪く素行もよくないわが子を、他のきょうだいよりも特に愛する、**その母親を我々も愛するではないか？ 我々も彼女とともに泣くではないか？** しかし優秀な教育者であり、優秀な母親であり、優秀な大勢の子どもを産んで育てた母親が、社会的にはより高く評価される。そしてこれは、どこから見ても正しい。

そこで我々はどちらの神を求めるか？ 無条件の愛そのものである神を、正しさや教義を要求するより神よりも、我々は求めるではないか。**我々と一緒に泣いてくれる神**を我々は求めるではないか？ ただ、神は人間を平等には創らなかった。これは事実である。そこでこの事実をもって神を憎む者、共産主義者のような短絡的人間がいる。しかしそこには、何らかのやむを得ない理由があったものと解釈する者もいる。その理由はわからない。神の深い解釈があるだけである。そこで「悪人正機」と言われる、逆説的な神の解釈——親鸞の「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」——善人でさえ神に救われる、悪人なら、なおさらのことだ——というような考え方が現れる。

私は子どものときに、母から聞いた話を忘れることができない。「ある僧侶がどこかの家を訪問し、その主に仏法を説いて聞かせたが、この男は全く信ぜず、悪態をつくだけだった。〈それでは…〉と言って、草鞋をはきかけた僧侶の手の甲に、涙が落ちるのをこの男は目撃した。そしてたちどころに回心した」という話である。

これはどこでも起こり得る話で、その回心は常に無言の涙を契機として起こっている。決して旧約聖書が言うような「嫉妬する神」によって起こることはない。言葉で教育されてそれが起こることは、まれであろう。それは深い愛の、悲しみの情（エモーション）によって発現するものであって、「お前のそのエモーションを、もっと洗練されたものに改善してやろう」というような、教育者や政治家によって起こることはない。

今、ユーチューブを通じて起こっている混乱は、收拾がつかないように見えて、ある筋道があることが、だんだんわかってきた。この私のような宇宙解釈を取る者を、本質的に無知の者として教育してやろう、という人々がいるのである。

私が前稿で、わざと日本語の擬古文で書いた、無作法な作り話（現実に rude と評する人がいた）には、意図があった。人々がどのように反応するか見ようの思っただけである。結果は予想したとおり、支持してくれる人たちと、カンカンに怒った人たちに大きく分かれた。怒ったのは政治的教育者の人たちである。

ところで、この無言の深い悲しみから出た、有名な文学作品がある。それは長編だが、部分的な独立した挿話なので、これを私は何度も用いており、学生に対してもコピーを与えて読ませた。それはドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』の「大審問」挿話といわれる部分である。これはかつて中世のスペインで、恐ろしい異端審判が盛んだったときに、突然、甦ったイエスが現れ、説教を始める話である。これに憤った教会権力者たちが、「我々がうまく治めているこの宗教的秩序の世界に、お前は今頃、何をしに戻って来た？」と言って、イエスを責め裁判にかける。詳細をここでは説明しないが、この裁判の劇的なポイントは、イエスがこの間、ひとことも言葉を発せず、沈黙することである。そして、これを読む読者には、**無言のイエスが勝った**という印象を与えることである。

あの仏教僧侶の、草鞋を履く手の甲に落とした涙の一滴と同じようなことが、ここでも起こっている。

そして我々が感じている、今この宇宙で起こっている不思議な深い愛の、止められない深い感情は、神が起こしている宇宙革命なのではないだろうか？

ユーチューバーたちの世界では、全く荒唐無稽な、勝手にねつ造した内容も論じられている。これはこれで、彼らの事情がわかって役に立つ。そもそも You と呼び掛けられる私が、日本人であることは誰にもわかっていると思っていたが、そうでもないらしいことがわかった。私が巨万の富を蓄えている、あるいは欲しがっているといようなことは、私が何べんも否定して周知のことと思っていたが、そうではないらしい。これは私の「敵方」の宣伝による故意のフェイクであろうから、やむを得ないこととしよう。

最も驚いたのは、私がアメリカ人であり、しかもアメリカの伝統的な富豪の家柄の生まれだと言った人がいることである。このような人々は、現在の米民主党の多くを支える反トランプ陣営であり、これは私を、逆立ちさせて歩かせるようなものだと言ってよい。

これが全く正反対の誤解である証拠には、私に「フリーメーソン」への加入を勧める事があることである。彼らはフリーメーソンとは言っていないが、私にはそれ位の常識はあるのですぐわかる。このような例は、私をおだてて、うまく騙そうとしている人々に、繋がっていると考えたくなる。それは考え過ぎかもしれないが、そう考えたくなる。

そのようなことを言う私を、憎んでも憎み切れない人々がいることは確かである。「知りすぎた者」として、私を暗殺したくなるかもしれないが、できれば、暗殺はしないでいただきたい。私は現在、91歳に近い老人である。何度も言っているように、ある程度の仕事はしたので、命が惜しいとは思っていない。しかし私は、多くの方々がご存知のように、運命として、私人であるよりも、公人の役を引き受けざるをえないようになった。この記事が示すように、私はあと少しだけ、やることを残しているかもしれない——と思っている。